

碩心

社団法人 日本詩吟学院岳風会 認可
 神奈川 碩心会 発行

現在会員数 178名
 2地区 282名
 月子地区 64名
 2地地区 (524名)
 年子地区
 返葉大 (合)

62年3月号 (176号)
 発行 者 萃 岳
 根 岸 集 者
 中 編 村 愛 岳

準師範の仲間に入れていたゞいて

宇都宮 徳風

昨年四月、凶らずも当社々員有志からの要望があり、木村松和支部長の御後援を得て「詩吟同好会」と称する教室を社内に設け、希望者七名と共に勉強することにになりました。お恥ずかしいことですが、他人を指導する立場になってはじめて今までにない真剣さで、詩吟の基本から勉強し直している次第です。

根岸会長先生の御懇諭により、準師範の資格を取得すべく、昨年九月二十一日その審査を受け、一月二十五日、総本部の受講を終え、提出した誓約書及びレポートの心構えの頂を実現するため、一層の情熱を傾け、現在十一名の指導に当っております。何卒諸先生方をはじめ、皆様方の御指導、御鞭撻の程お願い申し上げます。

扱、これより前、木村支部長がお勤めの都合で指導者講習会に出られなかったため、根岸会長のお計らいで、その代人として六月から私が出席させて頂いております。この講習会は碩心会指導者の研修の場であり、会運営上の連絡の場でもあるが、特に毎回の様に松井理事長先生が御出席になられ、

親しく指導をして下さる場であります。その御指導は懇切を極め、一人一人に吟詠させ、直して下さる所謂個人指導もあり、私も早速に体得させて頂き、強烈な感動を受けました。十余万の会員を擁する、日本詩吟学院岳風会の頂点に立つ理事長として、之が経営に心血を注がれてお疲れの中を、お住いが地元にあるとは云え、原則として御出席下され、御高齡を感じさせぬ御氣力と御音声で、親しく御指導を頂けることは誠に有難く、更に言えば直弟子の一人にして頂けた感激は大きく、吟道を志す者の冥利之に過ぐるものはないと感謝しております。

指導者の末席に名を連ねることが出来た機会に、この感激を何時までも忘れることなく、又今後の私の精進を誓う意味をこめて未熟乍ら「松井理事長先生を頌う」七言律詩を作りましたので御披露させて頂きます。

頌日本詩吟学院岳風会
 理事長松井岳洋先生

師事 祖宗 承教 鞭 研鑽五十有余年

岳風学院 経営健 後進会員 指導鮮

素読尽磨創韻読、詠吟用は益幽玄

献身弘道常垂範、流統為旁応永伝

祖宗に師事して教鞭を承け

研鑽五十有余年

岳風学院の経営健全に

後進会員の指導鮮かなり

素読磨き尽くして韻読を創め

詠吟を用いて幽玄を益す

献身弘道常に垂範

流統は為に旁く応に永なえに伝うべし

漢詩鑑賞講座を

受講して憶うこと

行 谷 佳 風

葉山ではこの程、町民大学が漢詩鑑賞講座を開いてくれました。かねがね漢詩学習を念願してましたので、早速申込み、定員の三倍とかなの中を幸い受講出来ました。

さて、開講式当日吟友は、と見まわすと岳相・愛岳両先生始め六名の傾心会員の顔が見えました。残念ながら逆に、もれた会員の方も何人かいられたと後でさきました。講半ば愛岳先生と、これが済んだら一文書きますよと約束しましたので、閉講後早

速構想をまとめ、原稿紙に向いましたが、練吟メモと重複してはと思ひ、五十九年四月から連載されているのを、始めから読むしてみると、なんと私の書こうと思ふ事等雀の涙にも及ばず、更に吟詠上の事にまで及んでいるので、完全に脱帽、私のは御破算にし、文題も変更出直しました。

唯思う事は漢詩の表現には、字数を決めて視覚美を整え、一語一語を平仄方式に従って配列、韻律美を作り出し、特定句末の押韻と合せて、詩の音楽化に役立っていると言われていますが、我々は訓読するのでその音楽性は、充分味あう事が出来ないのではないかと。

又何千年も昔の中国の韻文を、現代の我々が日本流に吟詠しても、そこに違和感が少しも生じないのは、何故だろうか。

終りに最近亡くなられた、中国文学者、貝塚茂樹氏の著書に、詩の理解鑑賞には朗吟、朗詠を見落すことは出来ないことあり、無意識のうちに我々は、詩の鑑賞もしている事になるが、一回の講座が読書だけよりはるかに理解納得に役立つ。

◎ 総本部費の改正

62年4月より総本部費年間七百円が千円となり吟道が全員の配布となりま

高段位審査講評の中から

☆漢詩がちょっと早い。余裕ある吟に。
☆和歌を自分なりの符付にしてしまう人が多い。

☆総体的に新しい吟符となってきた。

☆和歌の時間が短かい。それには正しい呼吸法が必要。

☆漢・和・俳・新体詩と四つの音階がまちまちの人がいた。自分の音階をつかむ。

☆詩情を如何に表現するかがポイント。

☆熟語を正しく表現(まのびしないこと)

☆素読・通釈をよく読んで心の入った吟に。

☆書取は符付を丁寧に楷書で。八段の方がよかった。

☆若い人に迫力がなくて低調。

☆新体詩を気張ってやっている人がいる。

☆書取は前から分っているのだから90点以上とらなくてはいけない。

☆次の段階に向って教本に忠実に。

☆学ぶは真似る。指導者に真似よ。

☆講評を参考にして勉強してほしい。

☆一番大切なのは正しい吟符の発声。

☆人生には終着駅がない。吟も同じ。

☆平均点数は七、八段共79・5点。

(以上講評の中の一部を抜萃記載しました)

あゝ七尾城 (2)

堀内・D 新井 衛山

時は天正五年（一五七七）九月十三日、謙信は今日手中にしたばかりの七尾城内に於て宵のうちから盛大に戦勝の祝を催していた。広場には上杉氏の大紋を染め抜いた長い幕を張り、会場の一段と高い板敷の上座には謙信がすわり、そのうしろに小姓組、左右には越後十七将を始め、重臣、宿将、さら星の如く並び、その他の兵士は会場に溢れて、あかあかと夜空を焦がす篝火に、将兵達は頬をてらし、皆小躍りして、時のたつのも忘れて勝利の祝宴を楽しんでいた。やがて将兵共のさわめきのうちに宴もすすみ、山上の秋気は清くしずまり、軍営に夜露を感じる三更の夜半、空には満天の月が皎々と閃え、折から北の空に向う雁の群が飛んでゆく。遠く越後、越中の山々は霞み、眼前に広がる七尾湾の眺望と併せ、まさに一幅の絵の如くうつり、将兵もこれに陶醉していた。

この時謙信はしばし瞑想、心に浮ぶものはなにか、越山して幾月、遠く故郷のことか、又は上洛と天下統一にかける武将の夢か、思いは果てしなく広がる。

いつとき謙信の心は決った。うしろに控える小姓に、矢立と色紙を用意させ、静かにこれを取ると、夜目にも黒々と、さらさらと七言絶句を書きとめた。

霜満軍営秋気清 数行過雁月三更

越山併得能州景 遮莫家郷憶遠征

書き終えた謙信は、これを暗唱して、自作の詩に満足すると、一人うなずき、今度の戦いで抜群の功労があった宿将・鬼兒嶋弥太郎を前に呼び、この色紙を与えたのである。（鬼兒嶋弥太郎は越後十七将の一人で小姓の時から謙信に仕える忠臣）色紙を拝領した弥太郎は、一読ののち、これを独吟、万雷の拍手をあげたあと、将士一同合吟して士気を鼓舞し、宴を続けたといわれる。

七尾城の戦いが終わったあと、謙信は加賀に入り、この地手取川に於て、七尾城救援にきた信長の援軍を散々に撃破してそのまま越後に帰り、天正六年（一五七八）三月、またも関東出陣の軍令を出した。この時の軍令は、上洛のためか、続々と遠征の準備を整えた軍勢が、春日山城に向けて集結中、同年三月十三日、病に倒れ謙信は四十九才にして急死したのである。そして上洛して天下統一にかけた武将の夢もこゝに消えたのであった。

練吟メモ

○年に一度は必ず合吟される「祝賀の詞」が、まだ新教本に載っておりませんし、旧教本は大意だけで語釈がありません。そこで、少々注釈を加えてみたいと思います。ただし、この紙数では、ほんのポイントを示す程度となることをご了承下さい。

○祝賀の詞は、わが国で広く慶祝の場で使われることばを集め、これを律にまとめたもの。河野天籟の代表作といわれる。作者は熊本県の小学校長を歴任。昭和23年没。

○第一句「四海、波平か」は、漢詩の構成上は正しいが、謡曲「高砂」からとったものであるから「四海波、平か」の方がよいとする説あり。つづく「瑞雲」は、平仄上からは教本の「瑞煙」が正しい。第一句は国の穏やかなこと平和なことを祝った語。第二句から第六句までは中国の故事成語を主としている。「五風十雨」は、五日に一度の風、十日に一度の雨で、これは豊年の吉兆。「桑田を潤す」は、中国の「桑田変じて碧海となる」故事から転用、ここでは桑と扶桑国（日本の別名）をかけ、わが国の気候温暖でめでたい限りを述べたもの。○「福は東海」のように、はるかに際限な

くひろがってゆく。中国では古くから日本を東海上にある国とし、わが国もまた東海の君子国と自称して来た。そして「寿は南山」のように悠久である。南山は有名な終南山のこと。南山の寿とは中国で長寿を祝う語。詩経に（南山の寿の如く、崩れず欠けず）とあるのを引用したもの。

○「鶴」は中国においても古くから、その姿と長命であることをもってめでたく尊い鳥としてきた。わが国においても同様であり、千年を経た松に宿る鶴は祝儀の席に欠かせない。「亀」も最高の長寿を保つ瑞獣といわれ、海の使者として信仰され、神聖な動物として扱われた。そして、江漢、すなわち揚子江や漢江の深い淵にひそんでいる。尋は水の深さを測る単位、ひとひろ。○「芙蓉」ははすの花。富士山の嶺が八つに分れていることから富士山にたとえる。「大えい」は大海のこと。詩吟に携わる者は、ここで当然藤田東湖の（文天祥の正気の歌に和す）の（注いでは大えいの水となり洋洋として八洲を環る）を想起する。ここは同じ発想と思われる。「ほうはく」は満ちひろがる。「九天」は高空。中国では空を九つに区分していた。天の最も高い所。以上途切れ途切れの語釈となりましたが、適当につなげて吟の参考として下さい。

堀内・D組開設十五年

中村愛岳

昭和47年2月4日、出席 沼田政夫・関沢貞吉、練習課題 9月10日。これは私のD組出席簿に記されているものであり、即ちD組開設記念日でもあります。更に目を追うと、一週間おいて2月17日に高梨安五郎さん入会、その日の練習課題は川中島。そしてゲスト参加として白井夫妻の名が記されている。このように私は出席簿をかきさずつけていますが、まさにD組の歴史でもあります。

十五年前の或る日、根岸岳萃先生が我が家の玄関に立たれ、お互いの同級生である沼田政夫さんを頼むといわれたあの時の事が目に浮んできます。

D組にはまさに「三本の矢」とも言える人達がいて今日迄続いてこれたと思うのです。皆さんそれぞれに役割、仕事をもって忙しい中を休まず励んでこられた事は指導の立場からは何よりも嬉しい事です。これを機に、D組の益々の発展に努力したいと思っております。よろしく御支援の程。

(氏名・住所変更)

73 佐竹末子 氏名・佐竹末子を佐竹スイに
新住所・逗子市逗子二ー一十四

101 安達俱子

新住所・千葉県市川市真間
一ー五ー二メゾン菅野二二三
(電)〇四七三ー二四一ー八一七

156 西岡江風

新住所 葉山町長柄二六一七ー一三
(電)〇四六八ー七五ー六一五〇

413 西岡ようこ

新住所・葉山町長柄四四一ー二
(電)〇四六八ー七六一ー三四三

524 根岸啓山

新住所・葉山町長柄四四一ー二
(電)〇四六八ー七六一ー三四三

572 根岸由佳

(電)〇四六八ー七六一ー三四三

783 村田文子

葉山町一色七二〇ー一三六
(入会)

784 永井満江

葉山町一色一八三六
(上原) 電〇四六八ー七五ー一〇三〇

785 林 聖子

金沢区東朝比奈一ー一十一
(真澄) 電〇四五ー七八三ー八九七一

786 福本モト

逗子市逗子二一六ー二八
(真澄) 電〇四六八ー七一ー〇二二二

787 金子憲子

横須賀市平作三ー四一十
(逗子A) 電〇四六八ー五一ー三七四六

788 鈴木恵子

横須賀市小矢部二ー二二一三
(逗子A) 電〇四六八ー五一ー〇六五七

789 藤本光子

横須賀市平作二ー一四一八
(逗子A) 電〇四六八ー五三ー〇一四六

790 若林翠泉

葉山町一色二〇〇ー一八
(堀内・E) 電〇四六八ー七五ー四四三八

334 山崎洋山

(逗子A) 500 田中良山(上原)

714 大家恭子

(逗子A)

(退会)